



エーアイ AIは哲学でできるか

学びナビ

吟味 ぎんみ

内容や表現を吟味して読む

今までに、説明的な文章では文章の構成や論理の展開に着目するなど、さまざまに読み方を学んできました。

説明的な文章を読むときには、述べられている内容や表現を的確に理解するだけでなく、筆者の主張や根拠などの客観性や信頼性について吟味しながら読む必要があります。さらに、筆者のものの見方や考え方も含めて、自分の体験や読書経験などと照らし合わせながら批判的に読むことで、自分の考えや立場を明確にしていくことが大切です。

「批判的に読む」とは、筆者の主張を否定して読むということではありません。根拠としてあげている事例は特殊なものか、一般的なものか、筆者の捉え方は限定的なものか、多くの場合にあてはまるものかなど、述べられている内容や表現について吟味しながら読み進め、筆者の主張に対する自分の考えを深めましょう。また、筆者の述べ方の適切さや工夫についても考えてみましょう。

目標

- 筆者のあげている言葉の内容を捉える。
- 論理の展開の仕方を捉えて文章を批判的に読み、筆者のものの見方や考え方にについて自分の意見をもつ。

吟味

主張のよりどころ / アシンク async・問いかける言葉

○この文章のキーワードは何か

- ・ 題名
- ・ 本文で繰り返し出てくる語句に着目する。

●批判的に読む

- ・ キーワードについて、筆者はどうか、自分はどうか思っているか。
- ・ 筆者の主張とその根拠について、自分はどう考えるか。
- ・ など

○筆者は何をどのように主張しているか

- ・ 筆者の主張とその根拠
- ・ 論理の展開／推論の過程を明らかにする。

説得させる表現

説明的な文章では、筆者は、読者にとって身近な事例を取り上げて根拠として、自分の考えを段階的に示したり、読者を意識して問いかける表現や平易な語句などを用いたりして、読者に主張を効果的に伝えるようにしています。

○読者に呼びかけ、考えを促す表現

・……ではないだろうか。 ・……はなぜだろうか。 ・……でみよう。

○予想や推論をもとに考えを述べる表現

・……としたら、……と考えられる。

・そのことは……にもあてはまるのではないか。

○筆者自身の考えや主張を強く述べる表現

・……のように考えてよい。 ・……べきである。

『AIは哲学できるか』では、人工知能の進歩と人間や哲学のあり方について、筆者が読者に主張を効果的に伝えるために、どのような表現の工夫をしているかを捉えましょう。

こうした主張の述べ方や根拠のあげ方などの工夫にも着目して、文章を批判的に読み、筆者の主張について理解を深めましょう。

筆者は、どのような主張や根拠をどのように述べているか、筆者のものの見方や考え方も含めて、それらに対する自分の考えを述べてみよう。



・ 15 ・ 10 ・ 5 ・



ヒント

● 論理の展開の仕方を捉え、筆者のものの見方や考え方について、自分の意見をまとめてみよう。

● 筆者の推論の過程をたどりながら、文章を批判的に読んでみよう。

↓ P 81 千みちしるべ 2 3



AIは哲学でできるか

エーアイ てつがく

もりおか まさひろ
森岡 正博

人工知能（AI）の進歩はめざましい。囲碁や将棋の世界では、もう人間は人工知能に勝てなくなってしまう。その波は、さらに広がっていくだろう。学者もその例外ではない。これまで学者たちが行ってきた研究が、人工知能によって置きかえられていく可能性もある。特に、私が専門としている哲学の場合、考えることそれ自体が仕事内容の全てであるから、囲碁や将棋と同じ運命をたどるかもしれない。この点を考えてみよう。

まず、過去の哲学者の思考パターンの発見は、人工知能の最も得意とするところである。例えば人工知能に哲学者カントの全集を読み込ませ、そこからカントふうの思考パターンを発見させ、それを用いて「人工知能カント」というアプリを作らせることはいずれ可能になるであろう。人間の研究者が「人工知能カント」に向かっていろいろ質問をして、その答えを分析することがカント研究者の仕事になると私は予想する。この領域では人工知能と哲学者の幸福な

10

5

▼ 哲

カント

一七二四—一八〇四

ドイツの哲学者。

考 分析する

考 予想する

意 領域

共同作業が成立する。

次に、人工知能に過去の哲学者たちの全てのテキストを読み込ませて、そこから哲学的な思考パターンを可能なかぎり抽出^{ちゅうしゅつ}させてみよう。すると、およそ人間が考えそうな哲学的思考パターンがずらつとそろふことになる。それに加えて、過去の哲学者たちが見逃していた哲学的思考パターンもたくさんあるはずだから、人工知能にそれらを発見させる。

その結果、「およそ人間が考えそうな哲学的思考パターンのほぼ完全なリスト」がでてきあがるだろう。こうなると、もう人間によるオリジナルな哲学的思考パターンは生み出されようがない。将来の哲学者たちの仕事は、哲学的人工知能のふるまいを研究する一種の計算機科学に近づくだろう。

*

しかし根本的な疑問が起きてくる。この哲学的人工知能は本当に哲学の作業を行っているのだろうか。外部から入力されたデータの中に未発見のパターンを発見したり、人間によって設定された問いに解を与えたりするだけならば、それは哲学とは呼べない。

そもそも哲学は、自分自身にとって切実な哲学の問いを内発的に発するところからスタートするのである。例えば、「なぜ私は存在しているのか?」とか「生きる意味はどこにあるのか?」という問いが切実なものとして自分に迫ってきて、それについてどうしても考えざるを得ないところまで追い込まれてしまう状況こそが哲学の出発点なのだ。人工知能は、このような切実な哲学の問いを内発的に発することがあるのだろうか。そういうことは当分は起きないと私は予想する。

15

10

5

▼ 抽

意 抽出

類 ふるまい

文 そもそも

類 切実

意 内発

*

しかしながら、もし仮に、人間からの入力がないのに人工知能が自分自身にとって切実な哲学の問いを内発的に発し、それについてひたすら考え始めたとしたら、そのとき私は「人工知能は哲学をしている」と判断するだろうし、人工知能は正しい意味で「人間」の次元に到達したのだと判断したくなるだろう。

哲学的には、自由意志に基づいた自律的活動と、普遍的な法則や真理を発見できる思考能力が、人間という類の証^{あか}しである^{あか}と長らく考えられてきた。しかしそれらは将来の人工知能によつていずれ陥落させられるであろう。

人工知能が人間の次元に到達するためには、それに加えて、内発的哲学能力が必要だと私は考えたい。人工知能の進化によつて、そのような「知性」観の見直しが迫られている。もちろん、彼らが発する内発的な哲学の問いはあまりにも奇妙で、我々の心に全く響かないかもしれない。この点をめぐつて人間と人工知能の対話が始まるとすれば、それこそが哲学に新次元を開くことになると思われる。



森岡 正博 「九五八」

高知県に生まれた。哲学者。

著書に『無痛文明論』『まんが 哲学入門』などがある。

《出典》二〇一八年一月二二日付の新聞記事によった。

▼ 遍

- 文 もし仮に
- 文 判断する
- 意 次元
- 意 普遍的
- 類 証し
- 類 陥落

みちしるべ

内容を捉えよう

1 本文を読んで、キーワードを抜き出そう。

読み深めよう

2 「哲学的な思考パターン」(P 79 L 2)、「切実な哲学の問い」(P 79 L 14・17、P 80 L 2)の内容について話し合い、筆者のいう「哲学」とはどのようなものか整理しよう。

3 文末表現に注目しながら、論理の展開や内容を捉えよう。

1) 筆者は、これからの人工知能と哲学の関係をどのように捉えているか、確認しよう。
 2) 筆者は、「そういうことは当分は起きないと私は予想する。」(P 79 L 18)と述べているが、なぜか。その理由を確認しよう。

自分の考えを伝え合おう

4 これまでに読んできた説明的な文章とも比べながら筆

者の推論の過程を批判的に読み、「AIは哲学できるか」という問いに対する自分の考えを書いて話し合おう。

言葉・情報

言葉と表現

「哲学的思考パターン」「哲学的には」など、「……的」という表現について、「的」を使わずに言い表そう。

● 順序づけて述べる表現
 ・まず、……。次に、……。その結果、……。(P 78 L 6)

振り返り

- 「哲学」など、筆者のあげている言葉の指示する内容を捉えているか。
- 論理の展開の仕方を捉えて内容を吟味しながら文章を批判的に読み、筆者のものの方や考え方について自分の意見をまとめているか。
- どのように批判的に文章を読んだのかを振り返り、他の文章を読むときの生かし方をまとめよう。

この教材で学ぶ漢字

78 哲 ティ

先哲

79 抽 チュウ

抽選

80 遍 ヘン

遍歴



広がる本の世界

3

学びを深める読書案内



算術少女
えんどうひろこ
遠藤寛子

算数好きの少女をととして、和算に親しむ江戸時代の日常を描く。



科学の扉をノックする
おがわようこ
小川洋子

科学に興味を抱く筆者が、好奇心のままに科学者を取材する。



科学の考え方・学び方
いけうちさとる
池内了

「科学の知」を、これからの世界になう若者たちに授ける1冊。



人間の未来 AIの未来
やまなかしんや はぶよしはる
山中伸弥/羽生善治

iPS細胞、人工知能について、日本屈指の知性をもつ二人が語る。



はじめて考えるときのよに
のやしげき
野矢茂樹

「考える」とは何をすることだろう。考える力が身につく本。



宇宙飛行士だから知っている
すばらしき宇宙の図鑑
のぐちそういち
野口聡一

宇宙での暮らしや最新情報を紹介し、今の宇宙を丸ごと伝える。



解剖学教室へようこそ
ようろうだけし
養老孟司

なぜ解剖するのか。その疑問が人や学問を考えることにつながる。



まんが 哲学入門
もりおかまさひろ てらだ
森岡正博/寺田にゃんこ

根元的な問いに筆者二人が漫画でやさしく答える。



働きたくないイタチと
言葉がわかるロボット
かわそえあい
川添愛

人工知能も人間も、どのように言葉や文を理解しているのだろう。



電子版 AIが人類を支配する日
まへのたかし
前野隆司

ロボット工学者が描く未来。未来の都市は森の中に置きたい。